

修士課程
国際開発プログラム

政策研究大学院大学・財団法人国際開発高等教育機構

INTERNATIONAL

D

DEVELOPMENT

S

STUDIES

PROGRAM

沿革・目的

「国際開発プログラム」は、財団法人国際開発高等教育機構（FASID）と政策研究大学院大学（GRIPS）が共同で実施する修士課程プログラムであり、2000年4月に開設されました。21世紀の国際開発協力の分野において、世界各国で活躍する実践的かつ指導的人材を育成することを目的としています。

国際的に活躍する教授陣による指導、開発の重要課題に対処するにあたって必要となる理論とツールを学べるカリキュラム、英語で行われる授業、さらに実践を重視した教育と海外でのインターンシップを通じ、理論、実践および国際コミュニケーション能力の向上を図ります。また、プログラム修了者に対しては、政策研究大学院大学の修士号「国際開発研究」が授与されます。

IDS 特徴

■ 国際開発の重要課題を学べるプログラム

ミレニアム開発目標である「貧困削減」をはじめとする今日的な開発課題に取り組むため、貧困問題、開発と環境、開発とジェンダー、工業化論などを学びます。

■ 開発途上国の現実に根ざした開発課題の理解

ケーススタディを重視し、途上国における具体的な事例に基づいた講義を行います。東アジアにおける経済発展の成功を踏まえながら、その他のアジア地域及びアフリカの開発課題について考察する講義を提供します。

■ 実践志向で構成されたプログラム

理論を応用しながら体系的に開発課題を理解し、自ら政策立案・提言に結びつけられる人材の育成を目指しています。

■ 基礎から学べる開発経済学

これまで経済学を学んだことのない学生も、開発課題を一年間で体系的に理解できるよう、経済学、統計学、開発経済学の理論とその現実問題への応用について十分な指導を行います。

■ 日本の国際協力と日本の開発経験を学べる講義

国際開発援助の分野で働くには、日本の実施する国際協力を理解することが重要です。本プログラムでは開発援助の実務家や専門家を招いて講義を行い、開発援助の動向や国際協力の現場における重要な課題について学ぶ機会を提供します。また、被援助国であった歴史を持つ日本が、どのように発展してきたかを学ぶ講義もプログラムに組み込まれています。

■ インターンシップ制度

コースワーク修了後、国際機関・国際NGOなど海外の援助実施機関で、最長6ヶ月間のインターンシップを行う機会があり、将来のキャリア形成に役立ちます。

■ 学生の半数はアジア・アフリカからの開発行政担当者

1学年約30名の学生のうち半数は、アジアとアフリカからの開発行政の担当者であり、日本人学生もその多くは国際協力業務に携わった経験のある人材です。教科書にはない国際協力活動の実態を議論できる環境があります。

■ 講義は全て英語で行われます

コースワーク開始前は、英語の能力が一定水準に達していない学生に対して2ヶ月間の集中英語研修が実施され、開始後にも学生の英語力の向上を強力にバックアップします。

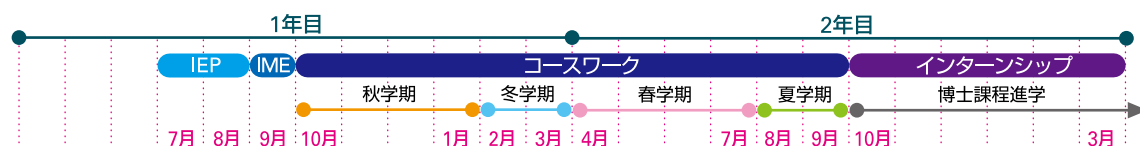


IDS カリキュラム

教育期間：最短約1年、最長2年間

国際開発プログラムは、開発経済学を主体とした開発学を学ぶ修士課程コースで、授業は全て英語で行われます。カリキュラムは9月から始まる3週間の数学・経済学入門研修（IME）、10月からの1年間のコースワーク、および最長6ヶ月間のインターンシップに

よって構成されています。またコースワークへの準備として、求められる一定の英語力に達しない学生に対して、最大2ヶ月間の集中英語研修（IEP）が実施されます。特に英語に堪能な方（TOEFL 600点〈CBT250点、iBT100点〉、IELTS Band 7.0、TOEIC850点以上）はIEPが免除されることがあります。



IDS コースワーク科目例

コースワークは1年間4学期制となっており、10月からの秋学期(4ヶ月間)、2月からの冬学期(2ヶ月間)、4月からの春学期(4ヶ月間)、8月からの夏学期(2ヶ月間)に分かれています。

秋学期(必修コア科目)

Microeconomics I・II, Strategies and Conditions for Development I・II, Quantitative Methods I・II

冬学期(必修基礎科目、および選択科目)

Government and Market, Development Project Analysis, Macroeconomics, Japanese Development Cooperation

春学期(選択科目)

基礎科目で学んだ知識を土台として学ぶ選択科目が提供され、学生はそれぞれの興味に基づいて選択的に履修します。

夏学期

国際的に著名な研究者・専門家を招き、開発の諸課題に関する集中講義が提供されます。

講義と平行して秋、冬、春学期を通じて行われるApplied Development Researchで、学生はそれぞれ関心のあるトピックを選び研究論文(リサーチペーパー)を作成します。

IDS FASID 教員

氏名	専門分野
大塚啓二郎教授	経済発展論、工業発展論、環境経済学
園部哲史教授	経済発展論、工業発展論、経済地理学
カリアッパ・カリラジャン教授	貿易論、応用計量経済学
山野峰教授	開発経済学
加治佐敬准教授	開発経済学
ジョナ・エステューディオ准教授	開発経済学、ジェンダー
鈴木綾助教授	開発経済学
真野裕吉助教授	開発経済学、経済発展論

卒業生の進路

本プログラム修了後の卒業生の進路は、派遣元省庁等への復帰の他、国際機関、JICAなどの援助実施機関、開発コンサルタント企業、NGOへの就職、および博士課程への進学等となっています。また、各国の留学生は帰国後、元の所属先でそれぞれ開発分野でのエキスパートとして活躍しています。世界的な同窓生のネットワークも本プログラムの魅力のひとつです。

JICA国内長期研修制度

このプログラムに入学する学生のうち、将来国際協力の専門家として活躍する強い意思をもち、独立行政法人国際協力機構(JICA)による所定の選考に合格した学生は、JICAが実施する国内長期研修制度(入学金、授業料及び海外インターンシップに必要な費用の一部をJICAが支給)を利用することができます。

キャンパス

国際開発プログラムのコースワークは、政策研究大学院大学のキャンパス(六本木)で行われます。本プログラムの学生には、院生研究室内に各人の学習スペースとコンピューターが1台与えられ、常時使用できる環境が整えられています。同大学図書館は約12万冊の蔵書、約1,200種を上回る雑誌も所蔵し、国際協力関係、経済学、政治学、法学等の専門書(和・洋書)や逐次刊行物(雑誌、年鑑、統計等)を学生は自由に利用することができます。





GRIPS

政策研究大学院大学 入学担当室

〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1
tel. 03-6439-6046 / fax. 03-6439-6050
e-mail: ids-admissions@grips.ac.jp
http://www.grips.ac.jp



都営大江戸線 六本木駅 7出口 徒歩5分
東京メトロ日比谷線 六本木駅 4a出口 徒歩10分
東京メトロ千代田線 乃木坂駅 3または5出口 徒歩6分

FASiD

財団法人国際開発高等教育機構 連携高等教育部

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館4階
tel. 03-5226-0356 / fax. 03-5226-0357
e-mail: program@fasid.or.jp
http://www.fasid.or.jp



東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線 九段下駅 4出口 徒歩3分

発行：国際開発高等教育機構

PHOTO CREDIT：劉怡祥（*印）、国際開発高等教育機構

デザイン：安藤 聡 (pickles design) 印刷：よしみ工産

© FASiD 2008